

第③回国連防災世界会議パブリック・フォーラム

Public Forum at the Third UN World Conference on Disaster Risk Reduction

災害常襲国 日本 「道の駅」の果たす役割

Role of Michi-no-Eki (Roadside Station) in Japan : A Disaster-prone Country

同時通訳設備有り

Simultaneous Interpretation Available



日時

平成27年

3月16日(月)

17:00~20:00

Date : Monday, March 16, 2015, 5:00pm-8:00pm

参加無料

Admission Free

「道の駅」とは

「道の駅」の登録制度は、ドライバーなど道路利用者や、地域住民の利便性向上を目的に1993年に始まった。地域活性化などに大きな役割を果たし、公的施設として訪れる人々の人気を集め、今や全国に1040カ所にも成長した。現在では、防災に果たす役割も注目され地域社会の大きな支えになっている。

What is Michi-no-Eki (Roadside Stations)

The program of Roadside Stations started in 1993 for the purpose of providing necessary services to drivers as well as activating local communities. They have been well accepted by communities and visitors, and presently, there are 1040 stations throughout Japan. They provided vital support to communities during natural disasters.

会場

東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館) 6F
601 大会議室

Location : 6F, Tokyo Electron Hall Miyagi (Miyagi Kenmin Kaikan)

主催：全国「道の駅」連絡会／NPO 人と道研究会

後援：国土交通省

協力：一般財団法人日本みち研究所／一般財団法人国土技術研究センター

お問い合わせ先

〒102-0075 東京都千代田区三番町7-1 朝日三番町プラザ

TEL : 03-3221-5921 FAX : 03-3221-5922

E-mail : info@route-press21st.jp



UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

Route Press ルートプレス 21st.



全国「道の駅」連絡会と道の駅新聞ルートプレスは第3回国連防災世界会議を支援しています。

災害常襲国 日本 「道の駅」の果たす役割

Role of Michi-no-Eki (Roadside Station) in Japan : A Disaster-prone Country

「道の駅」は制度発足から20年以上経ち全国に1040駅にも発展、今や第2ステージに入り「地方創生の拠点」として期待を集めるほど進化を続けています。東日本大震災など災害時には「道の駅」が復旧・支援活動の拠点になり、政府・自治体・地域住民の連携を生み出し、地域防災を機能させる仕組みを備えるまでに成長しました。国連防災世界会議の開催に合わせ、世界に誇るべきこの仕組みを「日本モデル」として、「道の駅」の防災対策の現在の姿と今後に関する課題について、道の駅の持つ機能と可能性を、世界に発信したいと願っております。

After 20 years, Michi-no-Eki has entered the 2nd stage and are expected to play the central role for community development. During disasters such as the Great East Japan Earthquake, Michi-no-Eki played strategic roles to support and assist in reconstruction, by providing networking among the government, municipalities and the communities. We hope to share those experiences with the world communities. Also, reflecting on past experiences, more improvement to the system must be envisaged.

プログラム

3月16日 (月)

17:15 開会

主催者の挨拶

全国「道の駅」連絡会会長 遠野市長 本田 敏秋 氏

【第1部】 基調報告

17:25 特別対談～国土のあり方を展望する～

「災害常襲国、日本『道の駅』の果たす役割

公益社団法人日本道路協会 会長 大石 久和 氏

内閣官房参与 京都大学大学院 教授 藤井 聡 氏

—— 休憩 ——

【第2部】 講演～現場からの報告～

18:30 講演① 公共施設としての「道の駅」の役割

国土交通省道路局長 深澤 淳志 氏

講演② 世界用語「Michi-no-Eki」

JICA客員専門員 鹿野 和子 氏

講演③ その時「道の駅」は

道の駅「上品の郷」駅長 太田 実 氏

講演④ 道の駅の防災に関する駅長アンケート分析と理論的考察

京都大学大学院都市社会学専攻 藤井聡研究室

19:45 閉会の挨拶

19:50 閉会

■司会 義山 望 (元 宮城テレビアナウンサー)

※上記プログラムは、変更になる場合があります。

特別対談パネリスト(プロフィール)

公益社団法人日本道路協会 会長 大石 久和 氏

1945年兵庫県出身。京都大学大学院工学研究科修士課程修了後、建設省(現国土交通省)入省。道路局長、国土交通省技監を歴任。一般財団法人国土技術研究センター国土政策研究所長。京都大学大学院特命教授を兼務する。社会資本整備の哲学「国土学」を提唱、「国土と日本人 災害大国の生き方」など著書多数。

内閣官房参与 京都大学大学院 教授 藤井 聡 氏

1968年奈良県出身。同大学院工学研究科修士課程修了後、同大に勤務。スウェーデン・イェテボリ大学客員研究員を経て東京工業大学大学院教授、京都大学大学院教授など歴任。持論の列島強靱化論が第2次安倍内閣の国土強靱化政策の原型となり2012年、第2次安倍内閣の内閣官房参与に就任。「レジリエンス・ジャパン 日本強靱化構想」など著書多数。

講演者(プロフィール)

国土交通省道路局長 深澤 淳志 氏

1979年建設省入省。外務省在トルコ日本国大使館二等書記官や静岡県掛川市助役、国土交通省関東地方整備局長などを歴任後、2014年から現職。

JICA客員専門員 鹿野 和子 氏

国際基督教大、ハーバード大卒業。国連人口基金のマレーシア、インドネシア及びタイ・ラオス・ミャンマーの各事務所長、国際協力銀行技術顧問など歴任。「道の駅」の途上国における役割に注目し、導入に尽力。日本パシイワ(汎太平洋東南アジア婦人協会)前会長。

道の駅「上品の郷」駅長 太田 実 氏

2005年に市町村合併で現石巻市に統合する前の旧宮城県河北町の最後の町長から現職に転身。東日本大震災では復旧支援に活躍した。

東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館) 6F 601大会議室

6F, Tokyo Electron Hall Miyagi (Miyagi Kenmin Kaikan)

交通のご案内

- ◆地下鉄 勾当台公園駅下車「公園2」出口から徒歩約5分
- ◆バス 仙台駅前29番のりば(荘内銀行前)から「定禅寺通経由交通局・大学病院」行きで約7分 定禅寺通市役所前下車

会場のご案内 Access

